

# 伊勢原の遺跡 調査報告会



平成 27年 3月 14日(土)

午後 0 時 50 分 ~ 午後 4 時 30 分

伊勢原市立図書館 AVホール

主催 伊勢原市教育委員会

共催 神奈川県教育委員会

公益財団法人かながわ考古学財団

# 次 第 & 目 次

12:50 ~

開会あいさつ

13:00 ~ 13:30

1 かみなりまついせき  
神成松遺跡第4・7地点

株式会社 玉川文化財研究所 香川 達郎..... 2 ~ 3

13:30 ~ 14:00

2 ひがしとみおか みなみ み まいせき  
東富岡・南三間遺跡

(公財) かながわ考古学財団 村松 篤..... 4 ~ 5

休 憩

14:10 ~ 14:40

3 こやす おおつばいせき こやす なかかわらいせき  
子易・大坪遺跡、子易・中川原遺跡、伊勢原市 163 遺跡

(公財) かながわ考古学財団 井辺 一徳..... 6 ~ 9

14:40 ~ 15:10

4 にしとみおか むこうばたいせき  
西富岡・向畑遺跡

(公財) かながわ考古学財団 長友 信..... 10 ~ 13

休 憩

15:20 ~ 15:50

5 かみかすや いちのこうかみいせき かみかすや いかずちいせき  
上粕屋・一ノ郷上遺跡第2次調査、上粕屋・雷遺跡

(公財) かながわ考古学財団 脇 幸生..... 14 ~ 15

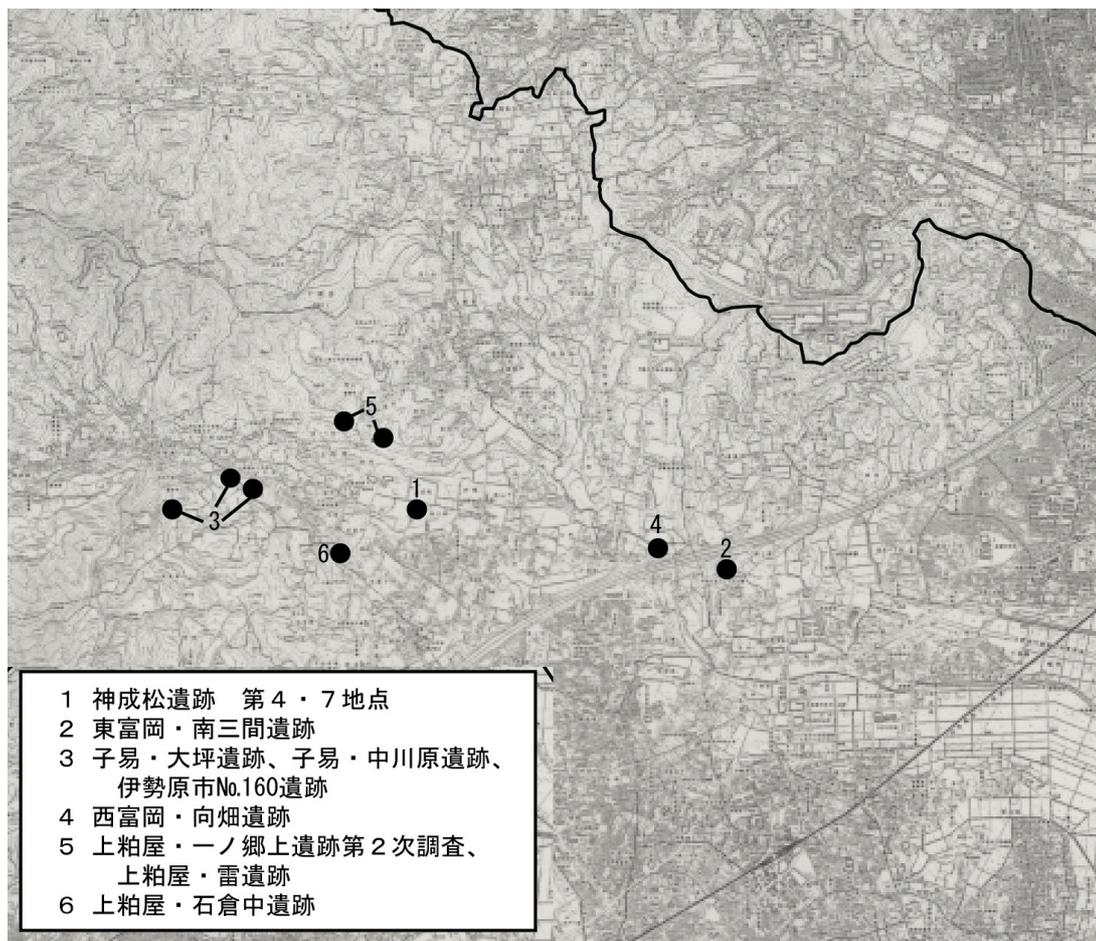
15:50 ~ 16:20

6 かみかすや いしくらなかいせき  
上粕屋・石倉中遺跡第2地点

(公財) かながわ考古学財団 小川 岳人..... 16 ~ 19

16:20

閉会あいさつ



報告する遺跡の位置図

伊勢原市内では、新東名高速道路建設事業や厚木秦野道路建設事業、県道 603 号線道路改良事業等に先立ち、多くの発掘調査が行われています。今回の報告会では、最新の調査成果について、発掘調査を実際に担当した調査員に解説していただきます。

開催にあたりましては、神奈川県教育委員会・公益財団法人かながわ考古学財団と共催し、株式会社玉川文化財研究所、神奈川県広域幹線道路事務所、中日本高速道路株式会社の御協力をいただきました。御理解に感謝いたします。

かみなりまつ  
神成松遺跡第4・7地点

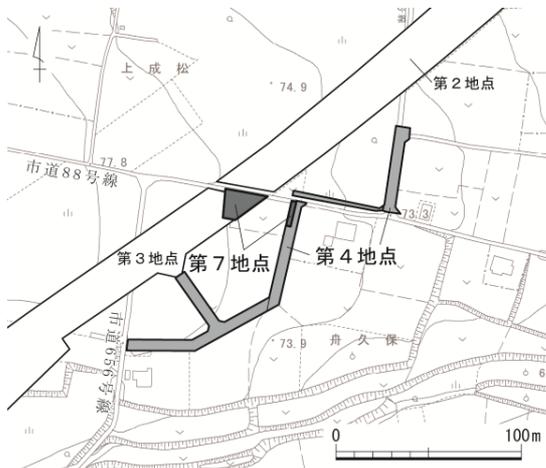
- 上粕屋扇状地の発掘調査 -

株式会社玉川文化財研究所 香川 達郎

**所在地** 伊勢原市上粕屋 1402-2 他  
**調査期間** 平成 25 年 4 月 1 日～11 月 1 日  
(第 4 地点)  
平成 26 年 5 月 7 日～8 月 14 日  
(第 7 地点)  
**調査面積** 約 1,459 m<sup>2</sup> (第 4 地点)  
271 m<sup>2</sup> (第 7 地点)

**発見遺構** 陥し穴・集石土坑(縄文時代)、  
竪穴住居址(古墳時代前期)土坑・竪穴状  
遺構・溝状遺構・ピット(中世)、土坑・  
溝状遺構・道状遺構・段切り状遺構・ピ  
ット(近世)

**出土遺物** 石器(旧石器)、土器・石器(縄  
文時代)、土師器(古墳時代)、陶磁器・  
金属製品(中世～近世)



## 1 遺跡の位置

本遺跡は小田急線伊勢原駅の西約 3 km の地点にあり、地形的には丹沢山地の南東麓に形成された上粕屋扇状地に位置し、現地の標高は約 74～76m 前後です。調査区周辺は眺望の開けた平坦地です、わずかに東側へ傾斜して

います。

## 2 調査の成果

今回の調査では、主に縄文時代、古墳時代前期、中世、近世の遺構と遺物が発見されたほか、遺構は発見されませんでした。旧石器時代の石器が出土しました。

旧石器時代では、チャート製の尖頭器が 1 点出土しました。中世の遺構から出土したものです。神成松遺跡で初めての発見例となります。

縄文時代では、陥し穴が 12 基、集石土坑が 1 基、土坑 2 基などが発見されました。陥し穴は規模や形状が様々であることから構築時期に幅があると考えられ、調査地周辺が当時狩猟・採集の場であったことがうかがえます。遺構から遺物は出土しなかったものの、包含層から中期初頭の五領ヶ台式から後期中葉のかそり加曾利 B 式に至る土器とともに石斧・石皿・石錘などが出土しました。

古墳時代前期では、竪穴住居址が 8 軒発見され、土師器の壺・台付甕・高坏などが出土しました。隣接地の調査(第 3 地点)では弥生時代後期中葉の住居址が発見されており、その頃から営まれていた集落であることが考えられます。

中世では、竪穴状遺構 5 基、溝状遺構 20 条、土坑 23 基、ピット 662 基などが検出されました。溝状遺構のうち 12 条は、扇状地の中央部を東西に貫く現行道路(市道 88 号線)と同一方向に伸びます。幅 1.5m を有する溝のうち 1 条からは解体されたウマの骨が出土しまし

た。骨は同一部位が重複することや、歯の摩耗度で推定される年齢差から少なくとも8体が混在しています。遺物は、青白磁の梅瓶せいぱくじ めいびんなど小破片ながら鎌倉の武家屋敷跡で出土するものと同等の高級品も出土しました。

近世では、現行道路直下から最大幅 1.2mの道状遺構を検出しました。現在と全く同じ経路と交差点を持つ路面が約 40 cmの厚みで幾重にも堆積する状況であり、路面のなかに

は 1707 年に噴火・降灰した富士宝永火山灰に覆われているものがあったことから、扇状地上には噴火以前から道が縦横に通じていたことが判明しました。また、畑の畝跡と見られる小溝群や、「イモ穴」と呼ばれる根菜類の貯蔵穴（土坑）が認められたことから、近世には畑が営まれ、現在と変わらない景観が広がっていたと考えられます。



写真 1 第 7 地点-縄文時代集石土坑



写真 2 第 7 地点-縄文時代陥し穴



写真 3 第 4 地点-縄文時代土坑出土土器



写真 4 第 4 地点-古墳時代竪穴住居址



写真 5 第 7 地点-中世溝状遺構群



写真 6 第 4 地点-近世道状遺構

ひがしとみおか みなみ み ま  
東富岡・南三間遺跡(伊勢原市 160 遺跡)

中世と縄文時代の発掘調査

公益財団法人かながわ考古学財団 村松 篤

**所在地** 伊勢原市東富岡 240 他  
**調査期間** 平成 26 年 7 月 16 日～調査中  
**調査面積** 4,726 m<sup>2</sup>  
**発見遺構** 畝・溝・ピット(近世以降)、<sup>たてあな</sup> 竪穴遺構・<sup>ち か し き こ う</sup> 地下式坑・井戸・土坑・溝・炉址・集石遺構・<sup>ほったてばしらなてもの</sup> 掘立柱建物・<sup>しきいしじゆうきよ</sup> ピット(中世)、敷石住居(縄文時代)  
**出土遺物** <sup>とうき</sup> 陶器・<sup>じ き</sup> 磁器・かわらけ・<sup>がしつ</sup> 瓦質陶器・  
出土製品・<sup>せきせいひん</sup> 石製品・<sup>てっさい</sup> 鉄滓・銅製品、木製品・  
人骨・獣骨(中世)、<sup>かいゆう</sup> 灰釉陶器・<sup>はじき</sup> 土師器・<sup>すえき</sup> 須恵器  
(奈良～平安時代)、土器・石器(縄文時代)

## 1 遺跡の立地

ひがしとみおか みなみ み ま  
東富岡・南三間(伊勢原市 160) 遺跡は、  
中日本高速道路株式会社による新東名高速道路  
建設に伴う事前の発掘調査として、平成 26 年度  
に実施しました。遺跡は伊勢原市北部、東富岡  
地区に所在し、南北に連なる富岡丘陵から東に  
派生する東西方向の谷に立地しています。これ  
までは、平成 22・25 年度に北側隣接地の発掘調  
査が行われ、古代と縄文時代の集落と、中世か  
ら近世の遺構の調査をしました。また、東名拡  
幅に先立つ平成 2～3 年の調査では、斜面上半部  
から 5 基の<sup>おうけつぼ</sup> 横穴墓が発見されています。今回の  
調査区は谷頭部付近の標高 33m 前後の南東向き  
の<sup>かんしゃめん</sup> 緩斜面の下部に位置しています。

## 2 調査の成果

今回の調査で検出された主な遺構は、中世の  
遺構群と縄文時代の敷石住居です。

### 【中世】

竪穴遺構は、傾斜が緩くなった谷の緩斜面か  
ら 17 基が発見されています。一辺 2～3m の正  
方形のものと長方形のものがあり、柱穴がある  
ものがあります。作業場(工房)などと考えら  
れる遺構です。

<sup>ちか し き こ う</sup> 地下式坑はローム台地の中近世の遺跡で多く  
発見される遺構で、今回は 8 基が谷を囲む崖線  
を利用して作られています。全体は羽子板型で、  
円形や方形の<sup>たてこう</sup> 竪坑を入口とし、一辺 2～3m の方  
形の地下室が斜面に掘られています。

井戸は平面が円形を呈し、斜面下位の低地際  
で 13 基検出されています。すべて素掘りです  
が、径 2m ほどの小型のものと、径 4m ほどの大  
型のものがあり用途に違いがあるものと推定さ  
れます。

土坑は、今回の調査で 100 基以上が斜面の中  
位で見ついています。平面形が円形と長方形  
を呈するものがあり、中に古銭や<sup>ととし</sup> 砥石が出土す  
るものがあります。また、ローム層の斜面地に  
径 2～3m の円形や方形の深さ 1m 前後の大型土  
坑が 10 基あります。斜面の黒色土直上まで穴を  
掘っていることから、ローム土の土取り穴と考  
えられます。

方形に区画している溝が少なくとも 2 個所  
で見ついています。区画内は平坦となっている  
ようですが、他の遺構との関係は今のところ不  
明です。溝の覆土からは鉄滓が出土しています。

真っ赤に焼けた炉址が見ついています。周  
辺からは大型の鉄滓などが検出され、近くから

は粘土を敷き詰めた遺構も見つかっています。  
鍛冶かじに関する遺構と考えられます。

自然礫が密集する集石遺構が見つかっています。土坑の中に構築された集石土坑と包含層中に礫の広がりが見られるものがあります。集石土坑からは、礫に混在して土器片や鉄滓、馬の歯などが出土しています。

径50cm前後のピットが800基以上検出されています。柱穴ちゅうけつと考えられるピットの中で掘立柱建物の柱穴として復元できるものは、根石の入った柱穴4本から構成される1棟だけです。

#### 【縄文時代】

縄文時代後期の敷石住居が南斜面で1軒見つかりました。一辺5mの隅丸方形の主体部に張り出し部が付く柄鏡形を呈します。石囲炉の周りから入り口にかけて、平らな石が帯状に敷き詰められています。

他に地震を原因とする、地割れや地滑りの痕跡が、調査区内の各所に見られます。そのため敷石住居は傾斜してしまい、また地滑りによって歪んでトンネル状になった土坑もあります。地震が起きた時代は特定できません。

今回の調査で見つかった遺構は、出土遺物からみると13世紀後半～14世紀前半と15世紀後半～16世紀前半の前後二時期に分けられるようです。主な遺物は、青磁、中国製白磁、常滑甕・鉢、瀬戸系瓶・碗・播鉢、天目碗、かわらけ、瓦質花瓶がしつげびょう・火鉢、土製品（羽口・猿）、鉄製品（釘）、銅製品こづか（小柄、古銭）、石製品すずり（硯、砥石）、鉄滓等があります。

### 3 まとめ

東富岡・南三間遺跡は出土遺物に鉄滓が多量に出土することから鍛冶関連遺跡と考えられます。各遺構は、谷奥の崖線に地下式坑、ローム台地に土取り穴と考えられる大型土坑、低地際に点在する井戸や区画溝・竪穴遺構など種類別に分布しています。これらの遺構が構成する谷間の空間が鍛冶に携わる人たちの残した痕跡と推定されます。また出土した硯が、この地を管理していた有力者を推測する鍵となるものと期待されます。



石製硯は3点出土、内1点に入道名が罫書き（白字はトレース）



大山山麓における縄文時代～近世の発掘調査

公益財団法人かながわ考古学財団 井辺一徳

**所在地** 伊勢原市子易地内、上粕屋地内

**調査期間** 平成 26 年 4 月 1 日～調査中

**調査面積** 2,491 m<sup>2</sup>(子易・大坪遺跡)

4,873 m<sup>2</sup>(子易・中川原遺跡)

798 m<sup>2</sup>(伊勢原市 No.163 遺跡)

**発見遺構**

**【子易・大坪遺跡】**

掘立柱建物跡・竪穴状遺構・段切状遺構・畝状遺構・溝状遺構・水田跡・石垣・自然流路・土坑・ピット(近世以降)、竪穴状遺構・段切状遺構・溝状遺構・水田跡・自然流路・土坑・柱穴列・ピット(中世)、畝状遺構(古墳時代～平安時代)、土坑(弥生時代)、竪穴住居跡・敷石住居跡・配石遺構・埋納遺構・屋外埋設土器・集石・土坑・ピット(縄文時代)、礫群(旧石器時代)

**【子易・中川原遺跡】**

掘立柱建物跡・竪穴状遺構・井戸跡・段切状遺構・畝状遺構・溝状遺構・道状遺構・水田跡・石垣・石段・杭列・植栽痕・土坑墓・土坑・ピット(近世以降)、溝状遺構・池状遺構・柱穴列・土坑・柱穴列・墓壇・礎石・ピット(中世)、横穴墓群(古墳時代)、陥穴状土坑・土坑・ピット(縄文時代)

**【伊勢原市 No.163 遺跡】**

段切状遺構・畝状遺構・水田跡・石垣・土坑・ピット(近世以降)、道状遺構・溝状遺構・弧状石列・土坑・ピット(中世)

**出土遺物**

**【子易・大坪遺跡】**

陶器・磁器・かわらけ・石製品・金属製品・銭貨・

木製品(中世・近世)、土師器・須恵器(古墳時代～平安時代)、土器・石器・土製品・石製品(縄文時代)、石器(旧石器時代)

**【子易・中川原遺跡】**

陶器・磁器・かわらけ・石製品・金属製品・銭貨・木製品(中世・近世)、土師器・須恵器(古墳時代)、土器・石器・土製品・石製品(縄文時代)

**【伊勢原市 No.163 遺跡】**

陶器・磁器・かわらけ(中世・近世)、土師器・須恵器(奈良・平安時代)

**1 遺跡の立地**

子易・大坪遺跡、子易・中川原遺跡、伊勢原市 No.163 遺跡は、小田急線伊勢原駅の北西 3.5km 程に位置する周知の遺跡です。

子易・大坪遺跡は鈴川右岸の段丘面に立地しており、立地面の標高は 105～110m を測ります。平成 24 年度調査において複数棟の大形建物で構成される鎌倉時代～南北朝時代頃の屋敷跡が発見されるなど、大きな成果があがっています。

子易・中川原遺跡は丹沢山塊南東縁に展開する丘陵末端縁に立地しており、立地面の標高は 116～128m を測ります。平成 25 年度より調査を開始し、本年度は主に古墳時代～中世面の調査を行っています。

伊勢原市 No.163 遺跡は、調査対象範囲の大半が鈴川左岸側の低位段丘面に相当しており、遺跡立地面の標高は 97～98m を測ります。平成 25 年度調査において、鎌倉時代～南北朝時代頃につくられたものと思われる石敷道路状遺構が確

認められました。ひと抱えもある大形の礫<sup>れき</sup>を縁石<sup>ふちいし</sup>として配し、路床<sup>ろしゅう</sup>に人頭大の河原石を敷き詰めた特徴的なつくりとなっており、子易・大坪遺跡で発見された屋敷跡との関係性にも留意される特筆すべき発見となりました。

## 2 調査の成果

### 【子易・大坪遺跡】

平成 26 年度は、中世の屋敷跡が発見された 4 区北の隣接地 3 地点(8・9・10 区)で調査を実施しました。

8 区では、中・近世の自然流路や、中世の竪穴状遺構・土坑・ピットのほか、縄文時代後期の集落跡、中期の屋外埋設土器<sup>おくがいまいせつ ど き</sup>や集石<sup>しゅうせき</sup>などが発見されました。とりわけ、縄文時代の調査は、新東名高速道路建設事業に係る子易地区の調査においてはじめての本格的な縄文時代の集落調査となりました。

9 区では、8 区で発見された中・近世の自然流路の上流部分が検出されています。

10 区西では、調査区全域で宝永火山灰を廃棄した土坑群(10 区西)が発見され、厚く埋積<sup>まいせき</sup>する火山灰を片付けて耕地を再機能させた様相が明瞭に見て取れました。

10 区東では、縄文時代後期の配石遺構群がみついています。後期最終末の土器(安行式)<sup>あんぎょうしき</sup>が供伴<sup>きょうばん</sup>しており、子易地区において最もあたらしい該期の遺構の発見となりました。

### 【子易・中川原遺跡】

1 区北を中心に、平成 25 年度から継続して調査を行っています。平成 26 年度は、古墳時代から中世の遺構調査を実施していますが、中世の呪符木簡<sup>じゅふもっかん</sup>や、古代～中世の池状遺構、古墳時代の横穴墓群<sup>よこあなぼくぐん</sup>など、特筆すべき遺構、遺物の発見がありました。

木札<sup>まじな</sup>に呪いの言葉<sup>ばくしよ</sup>が墨書された呪符木簡は、調査区最下段の埋没谷で発見されました。中世の木簡としては伊勢原市内初の発見事例となるものです。

池状遺構は調査区上段部分の広範囲に及んでいました。谷の流末が堰き止められて現出した自然の池なのか、人工的に造られた池なのかは明らかになっていませんが、西側隣接地にあったとされる廃寺(安楽寺跡)<sup>あんらくじあと</sup>との関係が気になる興味深い発見となりました。

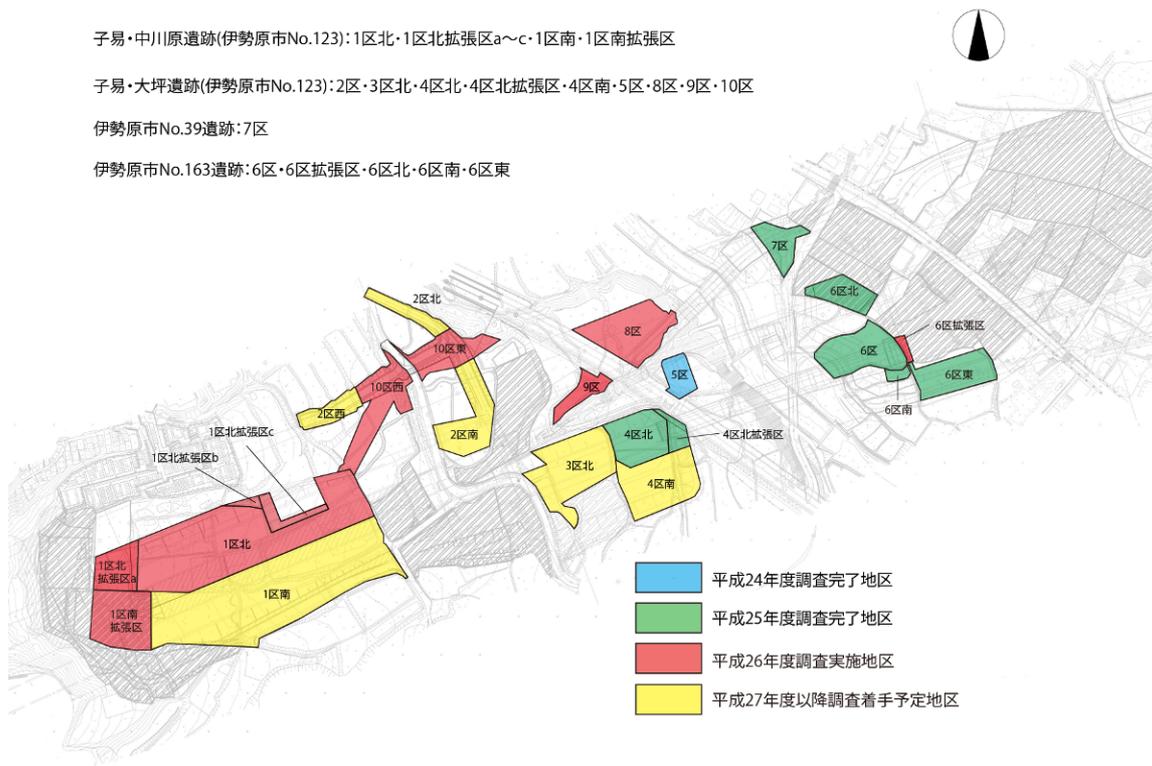
今回発見された横穴墓群は、これまで存在が知られていなかった一群であり、本遺跡の内容を書き換える貴重な発見となりました。

### 【伊勢原市 No.163 遺跡】

平成 26 年度は、6 区拡張区を中心に、中・近世の遺構調査を実施しました。6 区拡張区は、昨年度調査で発見された中世の石敷道路状遺構の東側延伸部分にあたる調査区で、石敷道路状遺構継続部分の発見が期待されましたが、残念ながら、道路東端部は調査区の境界部分に設置された近世の石垣によって破壊されていることが明らかになりました。

## 3 まとめ

子易地区では、次年度調査として、子易・大坪遺跡 10 区東・10 区西、子易・中川原遺跡 1 区北・1 区北拡張区・1 区南拡張区の調査を引き続き実施するほか、あらたに 3 地点(子易・中川原遺跡 1 区南、子易・大坪遺跡 3 区北、4 区南)の調査に着手する計画となっています。縄文時代後期終末の配石遺構下部面や平成 24 年度に発見された中世の屋敷地(子易・大坪遺跡)周辺部、池状遺構(子易・中川原遺跡)南側継続部分の調査を実施することとなり、平成 26 年度調査の成果を補完するより詳細な成果が得られることが期待されています。



第1図 子易地区調査区配置図(1/4,000)



写真1 子易地区遠景(東から)

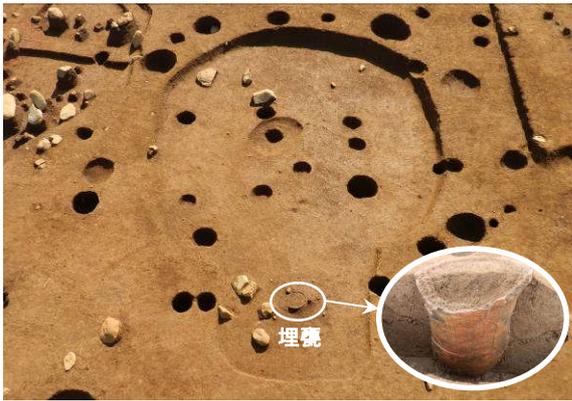


写真2 子易・大坪遺跡 8区 縄文時代後期の住居址



写真6 子易・中川原遺跡 1区北 中世の池状遺構



写真3 子易・大坪遺跡 8区 縄文時代中期の集石

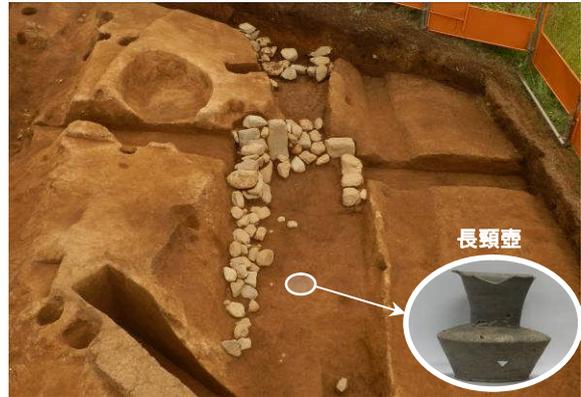


写真7 子易・中川原遺跡 1区北 古墳時代の横穴墓



写真4 子易・大坪遺跡 9区 中・近世の自然流路



写真8 子易・中川原遺跡 1区北 中世の呪符木簡



写真5 子易・大坪遺跡 10区東 縄文時代の配石遺構



写真9 伊勢原市 No.163 遺跡 6区 中・近世面全景

にしとみおか むこうばた  
西富岡・向畑遺跡(伊勢原市 160 遺跡)

中世路状遺構と古代集落の発掘調査

公益財団法人かながわ考古学財団 長友 信

**所在地** 伊勢原市西富岡 120 他  
**調査期間** 平成 19(2007)年 4 月 1 日～調査中  
**調査面積** 31,133 m<sup>2</sup> (調査終了地区含む)  
**発見遺構** 地下室・畝・溝・道・土坑・ピット  
(近世以降)、<sup>たてあなじょういこう</sup> 竪穴状遺構・<sup>ほったてばしらたてもの</sup> 掘立柱建物跡・  
地下式坑・炭焼き窯・井戸・溝・道・土坑・  
ピット(中世)、<sup>たてあなじゅうきよあと</sup> 竪穴住居跡・掘立柱建物跡・  
土坑・溝・道・杭列・ピット(古墳時代末～平  
安時代)、<sup>しきいしじゅうきよ</sup> 竪穴住居跡・<sup>みずば</sup> 敷石住居跡・水場遺構  
・<sup>はいせき</sup> 配石・<sup>うめがめ</sup> 埋甕・<sup>しゅうせき</sup> 集石・<sup>おびじょうねん</sup> 带状粘土列・土坑・杭  
列・ピット(縄文時代)、石器集中・<sup>れきぐん</sup> 礫群・炭  
化物集中(旧石器時代)

**出土遺物** <sup>とうき</sup> 陶器・<sup>じき</sup> 磁器・<sup>かわらけ</sup> かわらけ・<sup>せきせいひん</sup> 石製品・金  
属製品(中世・近世)、<sup>はしき</sup> 土師器・<sup>すえき</sup> 須恵器・<sup>かいうとうき</sup> 灰釉陶器  
・<sup>りよくとうき</sup> 緑釉陶器・石製品・金属製品・木製品(古墳  
時代末～平安時代)、土器・石器・土製品・石  
製品・木製品(縄文時代)、石器・礫(旧石器  
時代)

## 1 遺跡の立地

西富岡・向畑(伊勢原市 160)遺跡は、中日  
本高速道路株式会社による新東名高速道路建設  
に伴う事前の発掘調査として、平成 19(2007)年  
度から調査を実施しています。

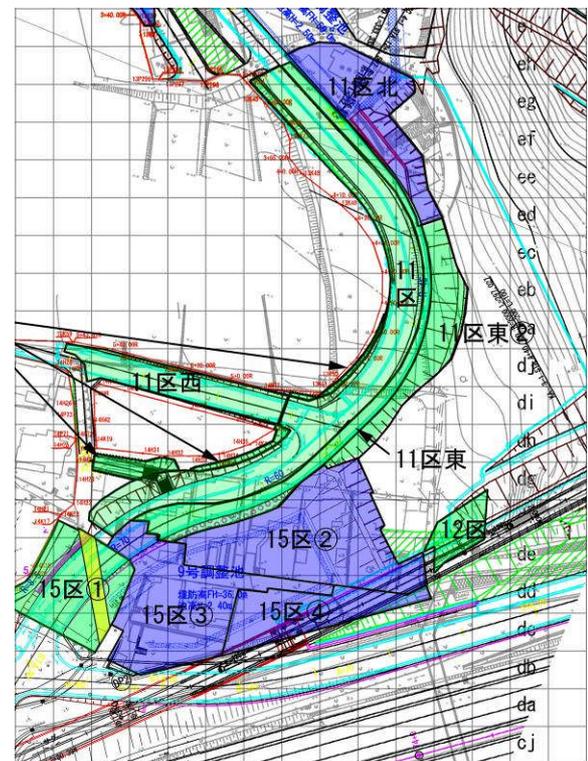
遺跡は伊勢原市北部、西富岡地区の丘陵地帯  
に所在しています。地形上は西側を南流する渋  
田川に、東を南北に連なる富岡丘陵に挟まれた  
台地上の標高 50m 前後の南西向き<sup>かんしゃめん</sup>の緩斜面と平坦地に立地しています。

## 2 調査の成果

平成 25(2013)年度後半から 26(2014)年度に



第 1 図 西富岡・向畑遺跡の範囲



第 2 図 西富岡・向畑遺跡の調査範囲

かけての調査では、主に 11 区北側の近世から縄文時代の調査と、15 区南側の近世から古代、縄文時代～旧石器時代の調査を実施しました。

近世から中世の調査では、15 区で畝状遺構のほか、路 1 条、地下式坑 1 基が見つかりました。

路（C 1 号路）は、調査区内を東西に約 56m に渡ってほぼ一直線に横切り、富岡丘陵に向かって緩やかな登り勾配を作っています。路面には大量の河原石が幅約 1 m の範囲で敷き詰められ、その下からは、石が敷かれる前に作られたとみられる路に併行する溝と、波板状凹凸面と呼ばれるピットや楕円の窪みが等間隔に並ぶ遺構が検出されました。また東端では丘陵に沿って南に向きを変えることが確認されました。路面を構築する盛土からは 15 世紀後半代の白磁など中世の遺物が出土し、また横断面の観察から、少なくとも宝永 4 (1707) 年の宝永火山灰降下以前に造られ、それ以降も盛土をして路面を作った形跡がありました。

古代の調査では、11 区北の丘陵斜面で竪穴住居跡 9 軒、掘立柱建物跡 4 棟、竪穴状遺構 2 基のほか、土坑などが見つかりました。この内、H19 号掘立柱建物跡は、柱を建てる位置を溝状に掘る「布掘り」の工法を用いており、溝が一周していました。溝が一周する掘立柱建物跡は本遺跡では初めて検出されました。溝の中からは柱穴が見つかり、南北 3 間×東西 3 間の規模で、南北がやや長い形状を呈しています。また H19・H20 号掘立柱建物跡は、同じ丘陵斜面に作られた他の竪穴住居跡や古代の遺構よりも、高くて見晴らしの良い位置に建てられていることも注目されます。

15 区では、竪穴住居跡 19 軒、掘立柱建物跡 4 棟が見つかりました。H13 号竪穴住居跡では、

カマドから煙を出す煙道部分に、底を抜いた土師器の甕を 7 個以上連結して用いたものが良好な状態で見つかりました。

縄文時代の調査では、11 区北で中期の竪穴住居跡 1 軒、集石 5 基が見つかりました。15 区では中期（曾利式期）の竪穴住居跡 2 基、後期（堀之内式期）の敷石住居 1 基、土坑 21 基、集石 13 基、陥し穴 6 基が見つかりました。15 区の J 1・J 5 号集石では石を取り除くと、炭化した木材が土坑の底一面に貼り付くように検出されました。集石の底にここまで良好な状態で炭化木材が残っている例は珍しいです。

旧石器時代の調査では、15 区のおよそ 20000 年前のローム層（B 1 相当層）を中心に、剥片（石器を製作する際に出た石の破片）が出土しました。

### 3 まとめ

今回 15 区で見つかった中世の路は、すくなくとも 16 世紀以降に造られたとみられ、明治 20(1887)年の「フランス式彩色地図」にもほぼ同じ場所に路が描かれています。また、調査前に当地に存在した道路は、この路のほぼ直上に位置していました。このことから中世から近代に至るまで同じ路が連続と使われ続けてきたことを示すものといえます。

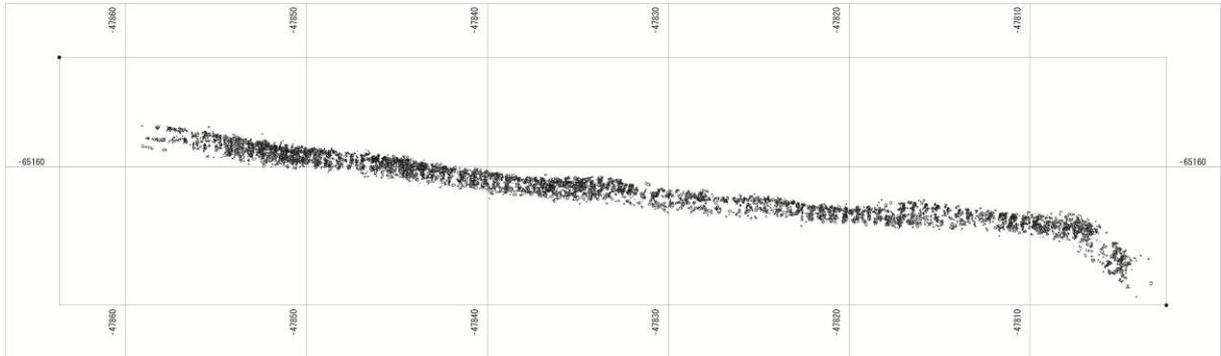
また古代、縄文時代の集落のほか、旧石器時代の遺物も本年度以前の調査から引き続き発見され、西富岡・向畑遺跡の規模の大きさを改めて示す成果となりました。



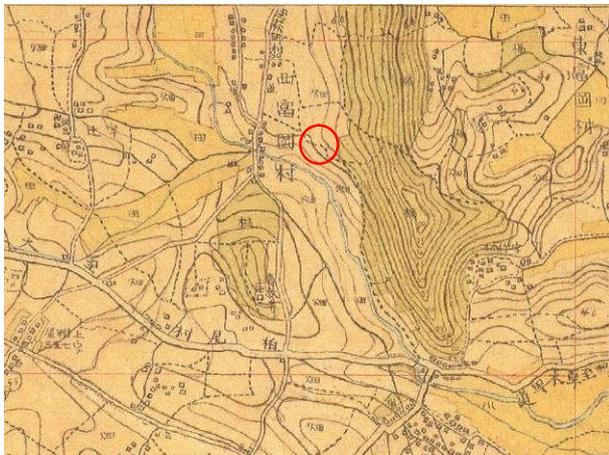
写真1 15区 C1号路



写真2 C1号路石敷(上)と波板状凹凸面(下)



第3図 C1号路平面図



第4図 フランス式彩色図に描かれた路



写真3 11区全景(古代面)



写真4 11区 H19号掘立柱建物跡



写真6 15区 H3号遺物集中



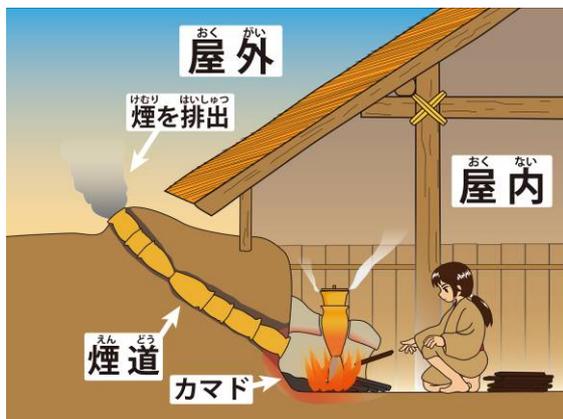
写真5 15区 H13号竪穴住居カマド煙道



写真7 15区 J4号竪穴住居跡



写真8 15区 J1号集石



第5図 H13号竪穴住居の煙道(復元)



写真9 15区 J1号集石下部の炭化物

# かみかすや いちのごうかみ 上粕屋・一ノ郷上遺跡第2次調査、上粕屋・雷遺跡 いかづち

公益財団法人かながわ考古学財団 脇 幸生

**所在地** 伊勢原市上粕屋 地先  
**調査期間** 平成 26(2015)年 9月 1日～  
平成 26年 12月 31日  
**調査面積** 1,863 m<sup>2</sup>  
**発見遺構** 道状遺構、段切り、溝状遺構、土坑、  
ピット(近世)、竪穴住居址、土坑、ピット  
(奈良・平安)、土坑(縄文)  
**出土遺物** 陶器・磁器・石製品・金属製品(近  
世)、土師器・須恵器・灰釉陶器・金属製品(奈  
良・平安時代)、土器・石器(縄文時代)

## 1 遺跡の立地

上粕屋・一ノ郷上遺跡第2次調査、上粕屋・雷遺跡は、中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設(伊勢原市上粕屋地区)に伴う事前の発掘調査として実施しました。本遺跡周辺は、平成 21～23年度の約3年間調査を実施しており、近世から旧石器時代までの遺構と遺物が見つっています。遺跡は伊勢原市北部、上粕屋扇状地内にある台地と大山山麓南東縁に丘陵に所在します。遺跡の標高は、上粕屋・一ノ郷上遺跡が 83～90m、上粕屋・雷遺跡が 71～73mを測ります。

## 2 調査の成果

上粕屋・一ノ郷上遺跡第2次調査では、近世、奈良・平安時代、縄文時代の遺構と遺物が見つかりました。近世では、土地造成を行っており、それに伴って溝状遺構が見つっています。土坑は、平坦面や段切りの斜面際に分布しています。長方形を呈し、数基がある一定範囲にまと

まっています。畠作に伴うイモ穴であると考えています。

奈良・平安時代では、竪穴住居址 9軒、土坑 3基などが見つかりました。竪穴住居址は、後世の削平により残存状態は良くありませんでした。確認した範囲から推定するとたいていの住居址規模は縦横約 3～4mであると思われます。住居址には、西側または北側からカマドが見つっています。H 5号住居址は、新旧 2つのカマドがあり、作り替えを行った事が判明しています。H 6号住居址ではカマド付近の床面から約 20cmの角礫と直径約 25cmの円形礫がまとも出土しました。礫は熱を受けておりカマド構築材であったと推定されます。

縄文時代では、土坑が見つっていますが、遺構の密度は希薄です。

上粕屋・雷遺跡では、奈良・平安時代の遺構と近世～縄文時代の遺物が見つかりました。調査によって埋没谷も見つっています。

奈良・平安時代の遺構は溝状遺構です。溝状遺構は、調査区の隅で見つかりました。一部のみの確認であったため詳細は不明です。

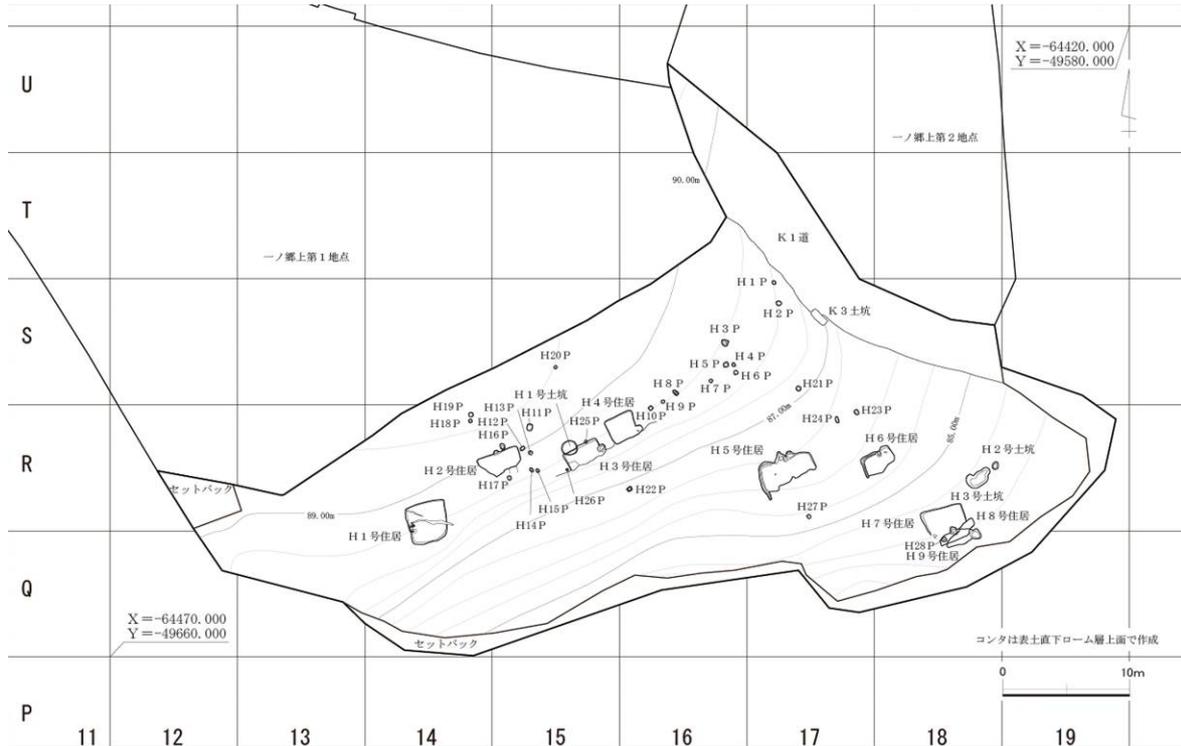
埋没谷は、南側にある谷戸に向かって延びており、確認した上端幅で約 18mを測ります。現地表面から下に約 3m掘削をしましたが、底面には到達しませんでした。埋没谷の覆土から遺物が出土しています。遺物は、土師器、須恵器、縄文土器、黒曜石製の剥片などが出土しています。周囲からの流れ込みと考えられます。

### 3 まとめ

上粕屋・一ノ郷上遺跡では、平成 21・22 年度調査で奈良・平安時代の住居址が 21 軒見つかっていました。同時期に調査を行った本遺跡の東側に位置する上粕屋・一ノ郷上遺跡、同・和田内遺跡からも住居址がみつかっており、本遺跡から同・和田内遺跡まで集落が展開していたと

想定されています。今回の調査は、集落の空白地を埋める形となり、集落の全容を解明する貴重な資料になったと思われます。

上粕屋・雷遺跡では、埋没谷が見つかりました。これにより過去の上粕屋・雷遺跡周辺での過去の人々の土地利用を検討する上で有益な情報を与えてくれると考えられます。



第1図 上粕屋・一ノ郷上遺跡第2次調査 奈良・平安時代遺構配置図



写真1 上粕屋・一ノ郷上遺跡第2次調査近世～縄文全景



写真2 上粕屋・一ノ郷上遺跡第2次調査H6号住居址

かみかすや いしくらなか  
上粕屋・石倉中遺跡（伊勢原市 40）遺跡

公益財団法人かながわ考古学財団 小川岳人

所在地 伊勢原市上粕屋 1493-2 他

調査期間 平成 26 年 4 月 1 日～調査中

調査面積 6,854 m<sup>2</sup>

## 1 遺跡の立地

遺跡は大山から伸びる鈴川が形成した上粕屋扇状地の扇央部近くに所在します。遺跡周辺は鈴川が開析した谷が発達し、遺跡は鈴川の谷と東の涸谷に挟まれた台地上に位置しています。この台地は両側が急峻な崖線となり、南側（伊勢原市の市街地方向）に向かってゆるやかに下がっています。遺跡周辺の標高は 88m ほどです。昨年度はこの台地を東西に横断するように調査区を設けました。今年度も引き続きその南側を発掘しています。

## 2 調査の成果

これまでに、<sup>じょうもんじだい</sup>縄文時代・<sup>こぶんじだい</sup>古墳時代・<sup>きんせい</sup>近世の各時代の遺構・遺物が発見されています。

<sup>きんせい</sup>近世の遺構としては道状遺構、溝、土坑、<sup>うねじょういこう</sup>畝状遺構、<sup>ふめいどこう</sup>不明土坑、<sup>すいしゃごやあと</sup>ピット、水車小屋跡等が発見されました。

複数発見された<sup>みちじょういこう</sup>道状遺構のうち、最も規模の大きな 3 号道状遺構は、昨年度発見された道状遺構の続きです。幅 8 m 深さ 2 m の掘割状を呈し、その規模と方向から近世に大山への参詣に使われた大山道と推定されました。今年度調査したのは、昨年度の南側で、斜面下方側に相当しますが、昨年発見された部分よりさらに深く掘割状になることを確認しました。また路面から掘割上へ登るスロープを発見しました。昨

年度の調査区では道と軸線が一致する掘立柱建物跡や竪穴状遺構が発見され、近世の屋敷地ではないかと推定しましたが、このスロープが屋敷地の出入り口であった可能性も考えられます。また、3 号道状遺構に直交するやや規模の小さい道状遺構を発見しています。この道状遺構は少なくとも 3 回作り直されていました。3 号道状遺構の昨年度調査部分は、西暦 1707 年の富士山噴火に伴う宝永火山灰が降った時には畑になり道としては使われなくなりましたが、今回調査した部分では、規模の小さい道状遺構と交差した南側はその後道として使用されていたことが判明しました。

近世の遺構として特筆されるものに、近世末<sup>すいしゃごやあと</sup>の水車小屋跡があります。この遺構は緩斜面を削って造成した平場に設けられた石垣と石組溝・竪穴状の掘り込みが一体化したもので、その形状と地元の方からの聞き取りにより水車小屋跡と判断しました。水車小屋跡の考古学的な調査事例は大変珍しいものです。水車小屋は石組溝と暗渠、臼を据えたと思われる小さな穴が掘り込まれた竪穴部分、礎石、礫敷きによって構成されています。また石組溝の中からは水車の軸受と見られる巨大な石材が出土しています。他から導いた水をこの石組溝に流して水車を回し、暗渠を使って排水するもので、水車を動力として縦杵を動かし、また唐臼を回していたものと想定されます。

この水車小屋跡の北側で直径 6 m 深さ 1.2m

をこえる近世末の大規模な土坑が発見されています。この土坑は何度も掘削と埋め戻しを繰り返していました。性格不明の土坑として「不明土坑」と呼んでいます。何度も掘り返したその形状から、あるいは土取りのための穴であった可能性も考えられます。

古墳時代の遺構としては古墳が3基発見されています。昨年度調査したものとあわせて全部で6基発見されたこととなります。古墳は昨年度調査したものの同様に、近世段階でこわされ、墳丘や死者を埋葬した部分は残っていませんでしたが、わずかに残された周溝から、直径11～16m程度の円墳であったことがわかります。また古墳があった場所には大きな穴が掘られ、石室の材料とみられる石が大量に捨てられています。この古墳をこわした穴から勾玉・管玉・切子玉・コハク玉など副葬品の一部が発見されています。

縄文時代の遺構は後期前半の敷石住居跡が4軒、竪穴住居3軒、前期末～中期初頭の竪穴住居跡1軒が発見されました。昨年度の調査でも同じ時代の敷石住居跡が2軒発見されていますので、これまで発見された敷石住居跡は合わせて6軒となりました。後期には敷石住居跡で構成される集落が展開していたものと考えられます。敷石住居跡は、南向きの緩斜面に東西方向に並んで立地します。また住居の主軸線（炉と出入り口を結んだ線）が大山山頂を向いていました。山頂を向いているのが意図的なものか、それとも単なる偶然なのか今後検討が必要です。前期末中期初頭の竪穴住居跡は台地の西縁にあたる鈴川側の斜面で発見されました。後期の住居跡とは立地が異なるようです。



写真1 道状遺構（近世）

道状遺構3（写真上方）へ直交する道状遺構4～6



写真2 道状遺構3へおりのスロープ（近世）



写真3 水車小屋跡（近世）



写真6 勾玉出土状況（古墳6）



写真4 古墳4（古墳時代）



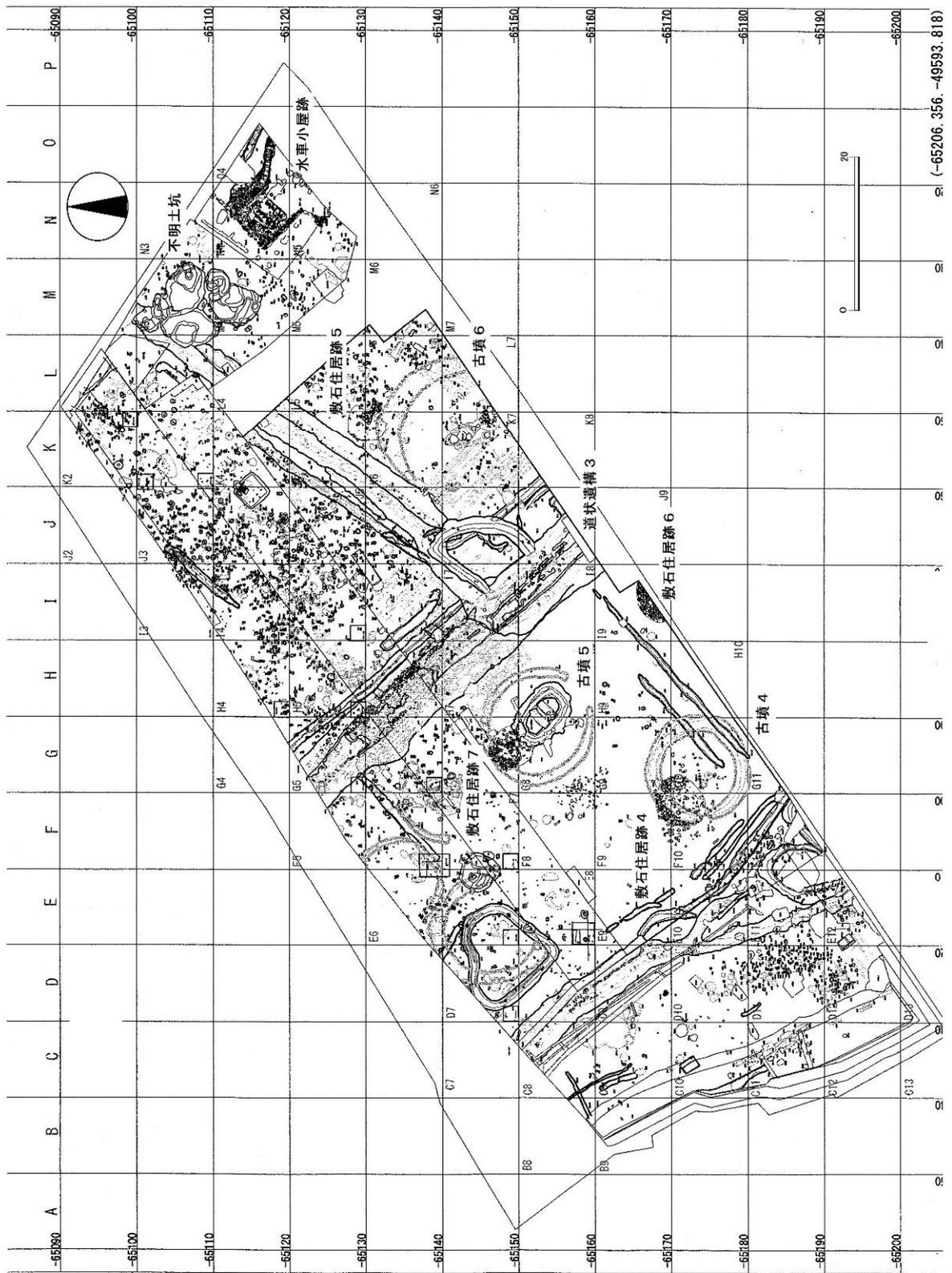
写真7 敷石住居跡5（縄文時代）



写真5 古墳5（古墳時代）



写真8 敷石住居跡7（縄文時代）



第1図 上粕屋・石倉中遺跡平面図(全体図)